

知事と区市町村長との意見交換会(武蔵村山市)

令和2年10月23日(金)

17時00分～17時20分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。

はじめに知事からお願いをいたします。

○知事 どうも、藤野市長、都庁までわざわざお越しいただきました。ありがとうございます。

コロナは引き続き戦いは続いているわけですが、ウィズコロナの時代をどうやって描いていくのか、今日は現場の話も伺いながら、長期戦略まで策定、持っていくその過程において、様々なお話伺えればと思っております。

短い時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 それでは藤野市長、御発言をお願いいたします。

○武蔵村山市長 ただいま御紹介いただきました、武蔵村山市長の藤野でございます。

当初は10月12日が予定をされていたところですが、私どもの都合で日程を変更していただきまして、大変ありがとうございます。

また、いつも武蔵村山市の行政運営、とりわけモノレールの延伸への御理解をいただき、大変ありがとうございます。

本日はウィズコロナ、アフターコロナを見据えた来年度予算についてと、唾液等によるPCR検査体制の充実について、そして最後に多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸について、お話をさせていただきます。どうぞよろしく願いをいたします。

はじめにウィズコロナ、アフターコロナを見据えた来年度予算についてであります。

現下の経済情勢は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、過去に例を見ない、非常に厳しい状況にあるものと認識しております。

このような状況におきまして、本市では市町村新型コロナウイルス感染症緊急対策特別交付金等により御支援をいただいたことから、これまで6次に渡る補正予算を編成し、プレミアム付き商品券の発行や、事業者応援給付金の給付、学校給食費の保護者負担軽減等の独自策に取り組んできたところでございます。

令和3年度の予算編成に当たりましては、歳入の根幹をなす市税の大幅な減収が避けられない状況にあることから、事務事業全般に渡る見直しを積極的に進めるとともに、新しい生活様式を踏まえた対応を進めてまいります。

また、開催が延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会につきましては、組織委員会及び東京都等の動向を的確に捉え、ホストタウン交流事業等の関連事業を推進してまいります。

東京都におかれましても、令和3年度は厳しい財政状況になるものと思われませんが、市町村総合交付金等を通じて、引き続きの御支援をお願いしたいと考えております。

次に、唾液等による PCR 検査体制の充実についてであります。

本市における新型コロナウイルス感染症の発生状況ですが、一人目が4月5日に、二人目が5月の3日に、そしてその後、7月から8月にかけて徐々に増えて、現在27人となっております。

PCR 検査センターにおきましては、本市では帰国者接触者外来を含め、2か所の医療機関で検査体制が整っている等の理由から、その設置を見送ったところでございますが、一方、6月2日の厚生労働省の発表で、病院や診療所において唾液による PCR 検査が認められることになったことから、PCR 検査や抗原検査を市内の多くの診療所、つまり身近なかかりつけ医で実施することができるよう支援をするため、現在、市医師会と調整しているところでございます。

今後とも東京都福祉保健局及び多摩立川保健所の御指導の下、より連携強化を図り、市内だけでなく、医療圏域内においても行政検査の充実を目指してまいりたいと考えておりますので、御支援をお願いいたします。

最後に、多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸についてであります。

令和2年度から、東京都では箱根ヶ崎方面への多摩都市モノレールの整備について、基本設計等の具体的な検討に着手していただいております。

武蔵村山市内でも新青梅街道拡幅のための用地買収が進んでおり、市民の期待が高まっている中、本市といたしましては、今年度からモノレールの延伸を見据えたまちの将来像を市民と交えて検討する、市のまちづくり基本方針の改定に着手するとともに、東大和市、瑞穂町と共同で策定したモノレール沿線まちづくり構想に基づき、将来の需要創出につながる沿線のまちづくりに取り組んでまいります。

7万2,000市民の長年の悲願であるモノレールの延伸に向けた歩みを着実に進め、早期の事業を期待しておりますので、よろしく願いをいたします。

また、武蔵村山市はこの11月3日、市制50周年記念式典を予定しております。是非お時間があって、まだ御出席のことはちょっと私ども、あ、欠席と言われたんですかね。何とか万難を排していただいて、このマスクをしていただければと思っております。

以上でございます。失礼いたしました。よろしく願いいたします。

○行政部長 藤野市長、どうもありがとうございます。

それでは知事からお願いをいたします。

○知事 まずは市制50周年、おめでとうございます。これまでまちを築くに当たったの貴庁の御労苦、そしてまた先人の皆様方の御労苦に対しまして、心から敬意を表したいと存じます。

そしてまず目下の課題でございますが、私の方から PCR の件とモノレールの件と、お話をさせていただきますが、感染拡大の可能性踏まえまして、医療機関が唾液を用いた PCR 検査を行政検査として実施するということが重要でございます。

行政検査数の充足を図る、そのためにはより多くの診療所で検査を実施するということが必要になるわけで、都としまして、都の医師会を通じて医療機関に対し、効率的な契約

方法等の周知も図っているところでございます。

今、市の方の医師会とも連携を取っておられるということでございますが、いずれにしましても、これらの着実な検査体制の確立ということは必要かと思えます。

都内の医療機関、適切な感染対策を行うということもこれあり、都内の医療機関が感染拡大防止対策、そして診療体制の確保等に都が経費を支援すると。そしてまた医療機関等、検査機器を整備する際の支援も行っております。

引き続き、感染拡大を防止するためのPCR検査の体制強化を図ってまいりたいと考えております。

それから先ほど写真も見せていただいたわけですが、多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面への延伸についてでございます。

この路線を実現することによって、開業区間と一体となって南北方向の拠点を結ぶ、そして多摩地域の活力や魅力を更に向上させることができると考えております。

そして沿線の2市1町でございますが、延伸に向けたまちづくりに着実に取り組んでおられ敬意を表したいと思います。

この度、都におきましては、事業化に向けて基本設計にもう着手をいたしたところです。

引き続き、関係者との協議、調整進めて、多摩地域におけます公共交通ネットワークの更なる充実に向けて、取り組んでいく考えでございます。

そして多羅尾副知事の方から加えさせていただきます。

○副知事 それでは私の方から、武蔵村山市におかれましてはコロナ対策として6次に渡る補正予算を組まれまして、6か月に渡ります学校給食費の保護者負担の軽減でございますとか、あるいは新生児世帯への給付金等、独自の施策を構築されて、地域を支える様々な取組を行ってこられたと承知しております。

都といたしましても、これまで緊急対策として総額100億円の特別交付金を交付いたしました他、市町村総合交付金の6月概算交付金額を引き上げる等、市町村の財政支援に取り組んできたところでございます。

今後の経済情勢、財政状況等を踏まえつつ、市町村総合交付金等によりまして、適切な支援に努めてまいりたい所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは藤野市長、今のお話を受けていかがでしょうか。

○武蔵村山市長 大変勇気付けられるお話をいただきました。ありがとうございました。

どこの自治体も同じ、この新型コロナウイルス対策、本当に皆さん必死で頑張っているところがございますので、東京都のお話は本当に勇気付けられます。

また、多摩都市モノレールにつきましても、瑞穂町の町長さんともお話をさせていただいて、いいお話も頂けたってこともお伺いしましたので、少しは胸を撫で下ろしているところがございますけれども、このような状況で本当に私たちも先が見えない状態では、何しろ市民の悲願であるモノレールだけは本当に見える形で、今後しっかりと進めていただくことをお願いする次第でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 どうもありがとうございます。

それでは最後に知事からお願いをいたします。

○知事 今日にはコロナ対策、検査、そしてまたまちづくりということ等、お話を伺うことができました。

これから来年度予算の編成、そして長期戦略の策定等、今日お話伺ったところ等も参考にしながら進めてまいりたいと考えております。

まずは市制 50 周年式典、盛大に開かれますこと、期待をいたしております。おめでとうございます。

○行政部長 それでは以上で終了させていただきます。

本日は御多用のところ、ありがとうございました。